

様式

けやき特別支援学校の活性化・特色化方針

(平成29年度～)

1 学校基本情報

| | | | | | | |
|----------|--|-------|-------|-------|------------------|------|
| 種別 | 病弱 | 学部・学科 | 小・中学部 | 児童生徒数 | (男) 13 (女) 19 | 計 32 |
| ホームページ | http://www.keyaki-sh.spec.ed.jp/ | | | | | |
| アクセス | JRさいたま新都心駅 徒歩5分 | | | | | |
| 教育課程等の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に小・中学校に準ずる教育を行っています。 ・教科書を使用して学習します。 元の学校と教科書が同じ教科は、そのまま使用します。異なる場合は、本校で新しく配布します。 ・病気以外に障害がある児童生徒は特別な教育課程により学習することもできます。 ・体調や治療状態に応じて学習を進めます。 ・学習進度、学習空白に可能な限り配慮しています。 | | | | | |
| 特色ある自立活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・本校では通常の教科に加え、自立活動という授業があります。 ・病気の治療中や病院の退院後、勉強や生活の困難となることに対して改善や克服を目指して行う学習です。 ・たとえば、健康を保つための学習、ストレスにどのように対応していくか学ぶ学習、悩みを言葉に表すことで心理的な安定を図るなど個人の状態に応じて様々な学習を実施します。 | | | | | |
| 病院との連携 | 本校では、教員が毎朝各病棟を回り、看護師からその日の児童生徒の体調を確認し、配慮すべき点などについて連絡を受けています。また、月1回の学校病棟連絡会や各病棟との生活委員会、ミニカンファレンス、年1回の教育連絡協議会といった定例会議の他、医療研修会なども実施しています。以上のことを通し、児童生徒の病状に配慮した指導力の向上を図っています。 | | | | | |
| 進路について | <p>【平成28年度卒業生進路先】 埼玉県立熊谷商業高等学校 浦和実業高等学校</p> <p>【平成27年度卒業生進路先】 埼玉県立伊奈学園総合高等学校 埼玉県立久喜高等学校 埼玉県立春日部高等学校 花咲徳栄高等学校</p> | | | | | |

(児童生徒数：H29.5.1 現在、進路は H29.3 卒業生の状況)

本校の魅力！

【本校の4つの重点目標】

- (1) 子どもたちの発達段階に応じて、自立活動の充実を図っています。
- (2) 子どもたちの個性を伸ばし、基礎学力を身につけさせるため授業力の向上を図っています。
- (3) 子どもたちの夢や希望の実現に向けて、キャリア教育の充実を図っています。
- (4) 病弱教育におけるセンター的機能の充実を図っています。

【センター的機能として高校生への学習支援をはじめました】

- ・本校に学籍は異動しません。 転校ではありません。
- ・原則として、在籍高校に教材を用意していただき、生徒が自主学習する形式になります。
本校教員による教科指導はありません。
- ・本校の教員が、高校からの連絡やプリント等を届け、学習状況の確認のために各生徒のベッドサイドを訪ねます。
- ・教員志望の大学生ボランティアが、勉強の仕方や悩みの相談にのってくれています。

県立けやき特別支援学校 ～本校の教育システム～

本校の 特色

埼玉県立小児医療センターに入院している小・中学生が勉強している学校です。
児童生徒が、入院前と同じように学習ができるよう、努力・工夫している学校です。
退院後に、以前と変わらない学校生活を送れるよう、全力でサポートしています。

【登校して学習】

治療の状況や体力・体調に応じて、病院からエレベーターを使い、学校に登校し授業を受けることができます。

登校した場合、自分の学年のクラスで学習します。通常の学校と同じように教科書を使って勉強します。

小学部：1年1組～6年1組

中学部：1年1組～3年1組

小中ともに重複学級があります。

地元校が特別支援学校の場合は重複学級で学ぶこともできます。

埼玉県立小児医療センター

9階～12階 病棟

ベッドで治療
ベッドで学習

エレベーター
で登下校

7階

けやき特別支援学校

小学部・中学部

【ベッドでの学習】

治療中であつたり、体力・体調の関係で登校できなかつたりする場合は、それぞれのベッドで勉強をします。学校から各ベッドに教員が出向きます。

ベッドサイドの勉強は1日3時間で、専用の時間割があります。1日の時間数は少ないですが、各教科をバランスよく学びます。また、基本的に教員と児童・生徒が1対1なので、状況に応じて柔軟に授業を進めることができます。

「登校して学習」か「ベッドでの学習」かは、治療や体力・体調に応じて病院が判断し、児童生徒本人と相談しながら日々、柔軟に対応しています。